

巻頭言

中部大学は2001年の応用生物学部の設立に先立ち、生物機能開発研究所を設置し、生物の持つ多様な機能を解明、利用することによって、私達の社会が直面する諸問題を解決するという目標を掲げてきました。研究所の発足以来15年が経過し、この間目標に沿った様々な事業を展開して参りました。現在は、①革新的な研究のシーズを生み出すプロジェクト研究の推進、②学生、院生および研究者を対象としたバイオサイエンス、バイオテクノロジー研究の啓発(ライフサイエンスフォーラム, 講演会など), ③若手研究者の自主的研究活動の支援、④研究紀要の刊行を通じた研究成果の公開を主な事業として行っています。本号にはこれら生物機能開発研究所が主導する事業の成果として、外部資金導入のためのシーズ研究を主としたプロジェクト研究の成果報告、生命健康科学研究所と合同で開催した2014年度のライフサイエンスフォーラムにおける講演の記録が掲載されています。ホームページで公開されているこの紀要は、多くの人々から参照されており、生物機能開発研究所の活動を広く社会に知らしめるとともに、様々な場面で活用され、役立てていただいているものと思います。いかにすれば研究所の活力を保ち、発展させて存在感を高められるかを自問する日々ですが、特に①のプロジェクト研究の参加メンバーの方々には、今後も研究成果の発信手段として大いにこの紀要をご活用いただきたいと思えます。

生物機能開発研究所が推進するプロジェクト研究は、これまでにバイオサイエンス研究センターや植物バイオ研究センターを始めとする様々な大型プロジェクト導入の基盤の形成に貢献してきました。今年度、研究所長を拝命した私もこの基本方針を受け継ぎ、「知の発信拠点」としての生物機能開発研究所の活力を増進するべく尽力して参る所存です。研究所の成果は単に研究活動の活性化をもたらすにとどまらず、学生や大学院生の方達に対する教育基盤の充実を図るのに欠かせないものと信じています。

最後になりましたが、ご執筆賜りました諸先生方と本号の発刊に向けて尽力くださったすべての皆様に心より厚く御礼申し上げます。

2015年3月

生物機能開発研究所
所長 大西素子